

今日の力

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

賢いものとなれ！

聖書朗読 箴言 1:1~7

ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれのことごとく知っておられます。

詩篇 139 : 4

小学校の教師をしている私は、学ぶことの大切さを全く理解していない小さな子どもたちを教えるときにもどかしさを感じることがあります。当然その子どもたちは、学ぶことだけでなく、その根源にあるものさえもないがしろにしてしまいます。私は、神は神の子どもたちに対して同じようなもどかしさを感じているのではないか思うことがあります。

神を知って学ぶことへの情熱を失ってはいは、私たちは神のみ言葉による素晴らしい知恵を得ることはできません。もしこの情熱を失ってしまうと、次の二つのことが必ずあなたに起こります。まず、すべての根源にあるものの大切さを見失い、そして次に、知恵から得られる恩恵を失ってしまうのです。

ソロモンは知恵の価値をととてもよく知っていました。ソロモンは何よりも知恵を願いました。ソロモンの若者へのアドバイスは、神はすべての知恵の始まりであるという真実から始まり、そしてそれで終わりました。最も簡単な問題から、最も複雑な問題まで、いかなる問題に挑むときも、神はあらゆる人生の問題に対して答えを備えてくださっているというこの間違いのない事実をまず覚えてから、問題解決にとりかかりましょう。

賢くなりましょう。そうすれば、神の子どもたちは、自身と周りの人の生活の質を高めることができます。これは私たちが何を知っているかではなく、何が重要であるかを知って、それに対してどのように行動するかということです。

讚美歌 91

祈り 主なる神よ。すべてにおいてあなた様の導きと助言を探し求める心を、私たちに与えてください。この人生で経験するすべてを賢く切り抜けられるよう、あなた様のみ言葉の奇跡を私にお見せください。

イエス様の御名によって。アーメン。

ランディ・ロバーツ  
ニューメキシコ州 グランツ

12月27日（火）

## 言 葉

聖書朗読 箴言 15：1～9

だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。人の怒りは、神の義を実現するものではありません。 ヤコブ 1：19～20

「怒りっぽい人が周りにいますか」と聞かれると、思い当たる人がでてくる人が多いのではないのでしょうか？ 怒りは周りのもの全てをしておれさせてしまいます。怒りは、人を不快にさせ、怒りを爆発させた人に対して、愚かな人という印象を与えてしまいます。『愚かな者は怒りをぶちまける。しかし知恵のある者はそれを内におさめる。』（箴言 29：11）。刑務所には、激しく、抑えることのできなかった怒りで数多くの人々を傷つけてきた人たちであふれています。

ソロモンは、人は周りからの影響を受けやすく、それによって、その人の振る舞いが変わってしまうかを知っていました。ソロモンは私たちに警告しています。『おこりっぽい者と交わるな。激しやすい者といっしょに行くな。あなたがそのならわしにならって、自分自身がわなにかかるといけなから。』（箴言 22：24～25）

怒りっぽくなる原理は、夏に保温性の高いシャツを着ている状況と同じです。これは暑いですね！ 思いやりの気持ちと、怒ると狂暴になる性格を融合しようと努力しても、それは夏にTシャツの上に保温性の高いシャツを着ているようなもので、全く無駄なことです！ 涼やかな思いやりという服を着るためには、暑い保温性の高い服を脱がなければなりません。

コリント人への手紙第一13：5には『愛は怒りません』と書かれています。ですから、愛は怒りを鎮めることができます。愛する気持ちは、人を罪へと導くのではなく、誰かを助け、より主に喜ばれる人へと導いてくれます。

讃美歌 130

祈 り 親愛なる主。怒りをコントロールしようともがいている人々に主の祝福がありますように。自分が誰かの怒りのターゲットになったとき、優しい気持ちで対応し、その人に対して怒りを持たぬようにお助けください。

スー・レイサム  
カリフォルニア州 アンテロープ

12月28日（水）

## 涙 な が ら に

聖書朗読 哀歌 5：15～22

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。 ローマ 12：15

祖母が亡くなったとき、教会の友人が祖父に2年間にもわたって毎月”Thinking of you（あなたのことを思っています）”カードを送り続けてくれました。そのカードの中には「あなたなら大丈夫」や「時が癒してくれます」や「神に立ち返りましょう」というような言葉は一度たりとも書かれていませんでした。その友人は、「このつらい時期、私はあなたのことを思っています」と、この言葉だけを書き添えていました。カードを送るという、このシンプルな行為は私の祖父と私たち家族全員に、誰かが祖母を失った痛みを知っていてくれている、ということを知らせ続けてくれました。

この世での生活は、私たちの心と頭を疲れさせます。この世で流れている時間がいつも死や病氣、失業、離婚、愛する者との別れによる苦しみを癒してくれるわけではありません。これらの喪失感を味わうと、人は神や、周りの人が理解できなくなったり、自分が一人ぼっちになったように思いがちになります。

イエス様は『心の貧しいものは幸いです』とおっしゃっておられます。あなたが見放されたと感じたり、何かを失ったり、怒りを感じたりしても大丈夫です。嘆きの時間に期限をつけることはできません。苦しみの中であなた自身や周りの人が感じる痛みは、クリスチャンとして生きていくための必要なものであると分かっているながら、私たちはクリスチャンたちとの交わりの中や、ソーシャルメディアの中での楽しい出来事にばかりを気にしてしまいます。苦しい時にこそ、神とその創造物との関係を改めて知り、新たな結びつきを知る大切な時となるのです。

讃美歌 393

祈 り お父様。涙を流すときや、痛みの時があることを理解できるようお助けください。あなた様は、み言葉の中で嘆きと悲しみの気持ちを表してもよい、むしろ表すべきだと私たちに教えてくださっております。苦しみの中にあるときこそ、あなた様に近づくことができますように。

イエス様の御名によって。アーメン。

マンダ・オブルターフ・ジャンク  
オクラホマ州 エドモンド

12月29日 (木)

光 ！

聖書朗読 ミカ書 7:1~8

しかし、私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の願いを聞いてくださる。私の敵。私のことで喜ぶな。私は倒れても起き上がり、やみの中にすわっていても、主が私の光であるからだ。

ミカ書 7:7-8

船が港に安全に入るように船乗りに危険な浅瀬や岩礁やサンゴ礁を知らせるため、各海岸線沿いには灯台が設置されています。激しい嵐の中、強烈な風や、荒れ狂う波に翻弄されながらも船は港を目指します。船長は彼の船を安全に避難先の港にもどすため、必死に灯台の光を探します。灯台の光は、多くの船乗りたちの命を救い、そして多くの船を安全にそれぞれの港に戻してきました。

イエス様はおっしゃっています。『わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』（ヨハネ 8：12）

ペテロは水の上を歩きました。ペテロの目がイエス様のほうを向いている限りは、ペテロは水の上を歩くことができました。しかし、荒れ狂う波を見て、荒々しい風の音を聞いた途端、ペテロは恐怖を感じ、沈み始めました。ペテロは『主よ助けてください。』と叫びました(マタイ 14:24-33)。

今は、私たちはどちらに向かっているかを知ることができないかもしれません。すべてのものが暗く、混乱して見えるかもしれません。今そのとき、イエス様が私たちにとって光となるのです。イエス様は光です。イエス様は私たちの羊飼、導き手、一家の大黒柱です。これ以上、今のあなたに在る所から沈むことのないようにしましょう。イエス様を見ましょう。イエス様は私たちの光です！

讚美歌 292

祈り 親愛なる主。嵐の中、どうか私たちをお導きください。あなた様を信じて、安全にそれぞれの状況や環境を乗り越えることができますようにお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

コニー・シンプキンス

ケンタッキー州 マウントワシントン

12月30日 (金)

神 殿 を 完 成 さ せ る

聖書朗読 ハガイ書 2:1~9

強くあれ。この国のすべての民よ。強くあれ。——主の御告げ——仕事に取り  
かかれ。わたしがあなたがたとともにいるからだ。——万軍の主の御告げ——  
ハガイ書 2:4

バビロン捕囚から解放されエルサレムへ戻った2年の間に、ユダヤの住民たちは、主の神殿の再建を始めていました。しばらくの間は、建設は順調に進んでいました。そして新しい神殿の基礎が完成した時、住民たちはそれを祝いました。

『すると、その地の民は、建てさせまいとして、ユダの民の気力を失わせ、彼らをおどした。』（エズラ書 4：4）。神殿の建設は途中で止まってしまいました。

約15年もの間、ユダヤ人たちは神殿建設を再開できずにいました。ハガイは、主の宮が廃墟となっているのに、彼らは自分たちのために板張りの家を建てたと言いました。ハガイは彼らに神は建設の再開を命じられていると言いました。再び住人からの反対にあいましたが、奮闘し最後には神殿を完成させました。

壮大な御国の建設は、時に周りの人や経済的な問題や悲劇によって邪魔されることがあります。私たちは、苦しい時が過ぎてしまうと、心がけていた善い行いや、神様のみ言葉を広める活動といったような布教活動の基礎の再建をあまりに簡単に忘れてしまいます。それどころか、自身のために、より俗世間的なことに身を投じてしまいがちになります。神様は、私たちを最初に、そして一番愛してくださっている方を今一度知って欲しいと思っておられます。

聖歌 620

祈り 私たちの持っている力をもう一度使えるものにしてくださるとき、神に感謝いたします。どうかこの力をあなた様の栄光のために使うことができるようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

アル・コーネル

ウィスコンシン州 ヒルスボロ

12月31日（土）

イエス様はついてくるのを待っておられます

聖書朗読 マタイ 4:18～22

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」 ルカ 9:23

S. I. マクレーン著の中で最も有名な「どの病気でもない」（原題：None of These Diseases）の中には、ある女性が登場します。彼女はある大学への進学を望んでいました。その大学の入学願書を記入しようとしたとき、その中にある質問欄の「あなたはリーダーですか？」という一文を読んで、彼女の心は折れてしまったそうです。誠実に正直であることが信念である彼女は、その問いに「いいえ」と回答し、最悪の事態を予期して、願書を大学に送りました。驚いたことに、大学から彼女のもとに手紙が届きました。そしてそこにはこう書かれていました。「受験者様、今回の入学願書に関する調査で、今年の我が大学は1452名の新しいリーダーを得ることになりました。この新しいリーダーには少なくとも一人は彼らについて行く者が必要不可欠となるため、私たちはあなたの入学を許可することになりました」。

私たちがイエス様について行くとき、私たちは、私たちが行きたいところではなく、イエス様が行くところについていきます。ここで言う「ついて行く」とは、イエス様が求めるならどんな道でもついて行くということです。真のついて行く者になるには、犠牲はさけられません。それは、金銭的なことかもしれません。それは時間かもしれません。それは思い描いていた夢かもしれません。

しかし、イエス様について行くということは、与え、守り、心から愛してくれる人について行くことを選んだということになります。

私たちは、全てをイエス様に委ねます。必要なとき、疑いがわいたときは、いつでもイエス様を見ましょう。そして、イエス様の助けと答えを待ちましょう。

イエス様は、今でも喜んでこの世の果てまでご自分についてくるよう人々に求めておられます。さあ、イエス様についてきましょう。

讃美歌 第二編 140

祈り 親愛なる主である神。イエス様の血によって私たちの罪を洗い流してください。感謝いたします。感謝してイエス様が行くところどこへでもついて行くことができるようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

デール・フォスター  
テキサス州 サイプレス

1月1日（日）

より求めて食欲に

聖書朗読 マタイ 5:1～12

イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」 ヨハネ 6:35

3歳の孫の世話をしているとき、長いお昼寝から目を覚ました孫が、ものすくお腹がすいたと私に訴えました。孫が必要で欲した食べ物以外は、その時の孫のその訴えを満足させるものはありませんでした。

大人になって、前日にそれほど食べていなくて、次の日の朝、あまりの空腹で目を覚ましたことはありませんか？ 一日の始めの食事をBreakfast（朝食）と呼ぶには理由があります。それは、夜中の飢え（fast）を破る（break）ということです。

私たちは義を行った後は、飢えや乾きを覚えます。神のみことばに浸り、そしてそれを楽しみたいという気持ちになります。しかし、その時間が長く続いて、飢えや渴きを感じなくなってしまうたらどうでしょうか？ その食欲の衰えを回復させるためには、私たちはどうしたらよいのでしょうか？

病気のあと、簡単なものを少しずつ食べるように、霊的な食欲を回復することが私たちにはできます。詩篇から少しずつ口にするか、もしくは、ルカの福音書を一口ずつ読んでいくのがよいでしょう。そうすると私たちの心に強さが戻ってきます。そして、私たちはより求めて食欲になっていきます。

讃美歌 第二編 95

祈り 親愛なる神様。必要な時にあなた様のみことばに浸らずにいる私たちをどうかお許してください。そしてみことばが私たちの魂と救いの食べ物であることを忘れないでいられますようお助けください。

イエス様の御名によって。アーメン。

デビー・ハリソン  
テキサス州 リビングストン